

声 明

2025年11月22日

広沢名古屋市長の市道弥富相生山線についての発言に抗議、撤回を求めます

水・森・いのちを守る ラブリーアース J a p a n

11月21日、名古屋市議会本会議の個人質問への答弁にて、市長は「一般車両の通行も可能な折衷案をまとめる」とし、工事の早期再開を目指す考えを明らかにしました。

私たちは大きな憤りをもって抗議し、すみやかな発言撤回を求めるものです。

1957年の都市計画決定以降2004年の工事着工までにも、さまざまな経緯がありました。68年も経っているのに未だに供用に至らないこと自体が、この計画の問題点と情勢の変化を示しています。当初の経済成長重視の社会情勢から、今では地球規模での環境戦略が求められるようになりました。

河村前市長が「これまで産業優先で道路をばかばかつくってきた名古屋の街に自然を大事にしようという精神でいこうと、それが根本」(2014.12.26)と計画廃止を表明したにもかかわらず、都市計画変更には至らず、当局は粘り強く「広く市民の意見を容れた『折衷案』のとりまとめを進めていた」と聞いています。

今回の市長の姿勢は「自然を大事にしたい」と願う市民の意思を裏切り、職員の努力も軽視し、行政への市民からの信頼をも大きく損なうものです。

今後引き起こされる事態のすべての責任は広沢市長がとるものとなるでしょう。

相生山緑地に生きるシイノキ、カシ、ナラなどの樹木、猛禽類、キツツキ、ヒタキ類などの野鳥、カブトムシ、ヒメボタルなどの昆虫、カタツムリなどの陸貝、それらの遺体を分解し土に還す菌類たちは、ヒトによる生態系の破壊に声をあげて抵抗することができません。自らの死滅をもって抗議するだけです。

私たちはかれらの代弁者としても、市長の拙速短慮な思考に抗議します。

どんな小さな声でも試みでも、思いを同じくする人びとと手を携え、力を合わせ、道路工事が再開されないよう、ありとあらゆる手だてを尽くすつもりでいます。

人の利便性を優先して自然環境の破壊に譲歩するなら、人が生きていくことをも困難にするものであることは、今日の世界のさまざまな事例で明らかです。

私たちは未来の名古屋市民のためにも、相生山緑地を横断貫通する道路の開通を許しません。今回の市長発言は私たちの決意をあらためて強めるものとなりました。

以上